

秋の七草の一つ 「フジバカマ(藤袴)」



フジバカマは毎年秋に花が咲く多年草です。冬には地上部は枯れてしましますが、根に養分を蓄えて、春には新芽が芽吹き、夏から秋にかけて成長し、淡い紫色の花を一面に咲かせます。

もともとは良い香りがする薬草として、中国から渡来したものだといわれています。花や葉を乾燥させると桜餅のような甘い香りがするので、香袋などに利用されていたそうです。

奈良時代には、野生化したものが日本各地の野原に広まって、秋の七草の一つとして、万葉集の歌に詠まれるほどに親しまれるようになりました。

現在は、野生のものは減少し、絶滅が危惧される希少な植物になっています。(※園芸品種は野生種とは異なります)